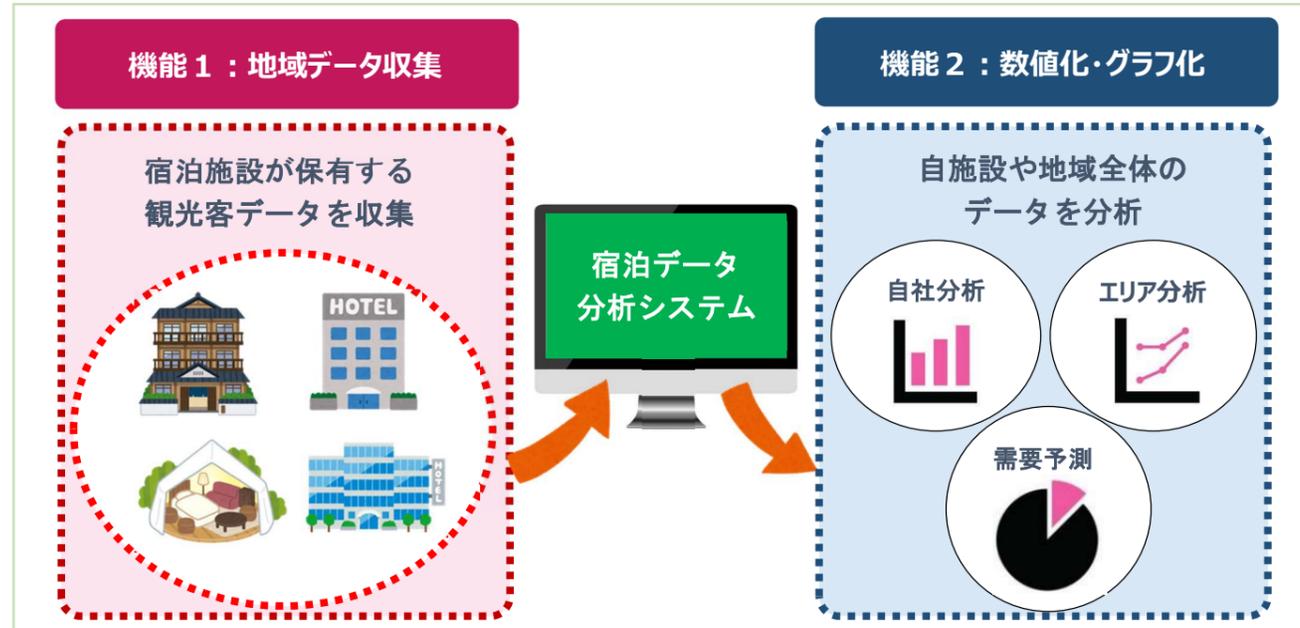


観光DX「宿泊データ分析システム」について

1 宿泊データ分析システムとは

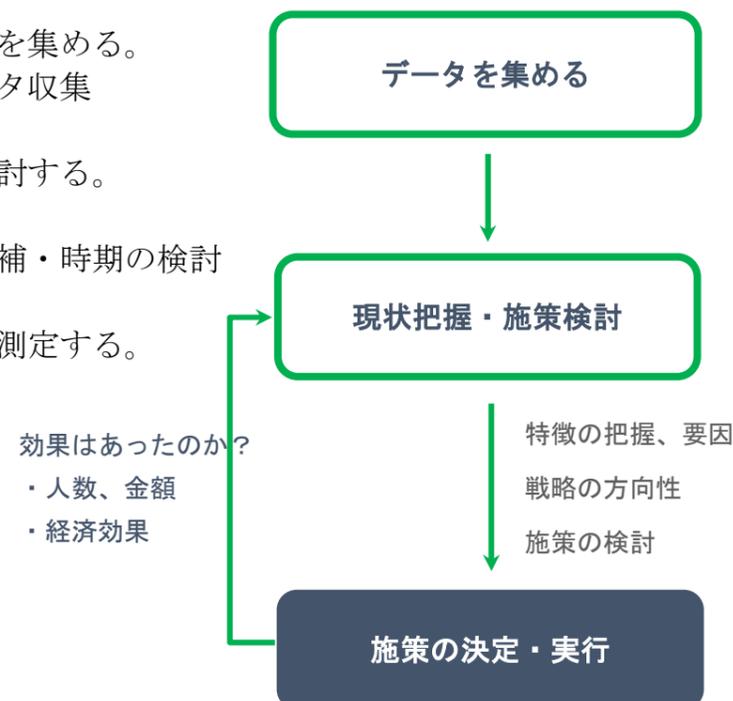
- ア 宿泊施設が保有する観光客のデータを収集し、どのような観光客が地域に来ているのかを把握
- イ 地域のデータを集め任意のグラフに視覚化



ウ 湯河原町内のシステム導入参加表明件数 38件（令和7年1月末日）

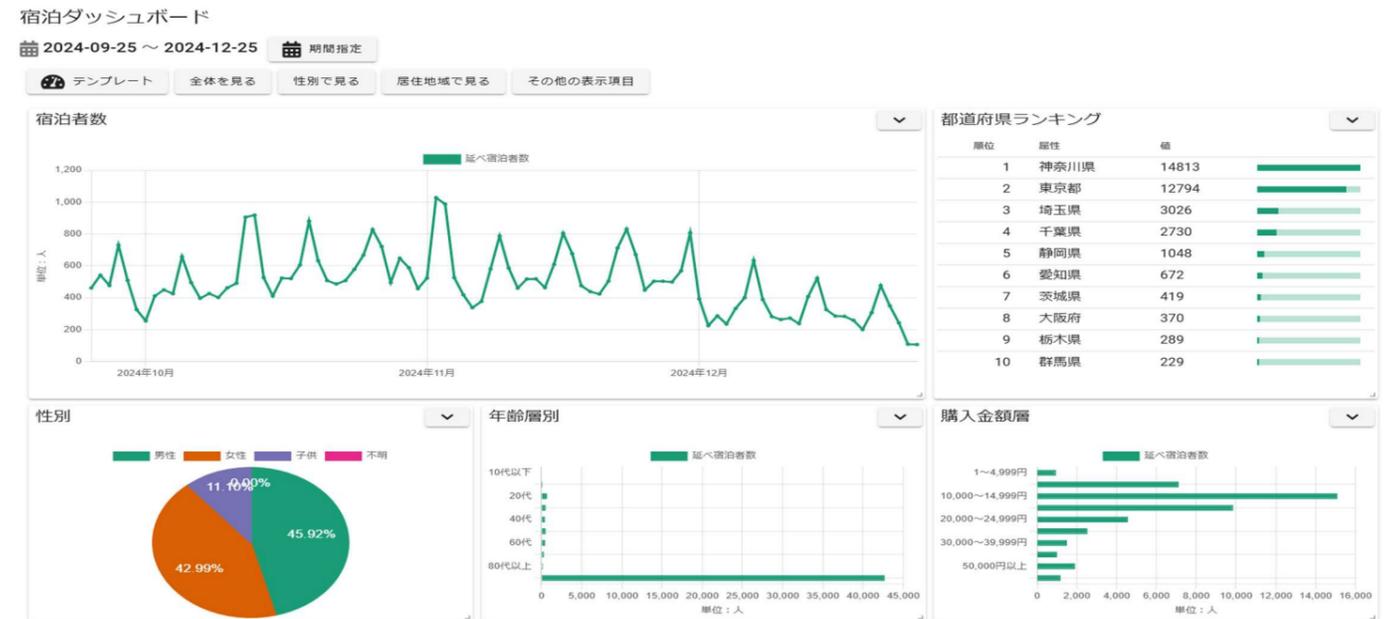
2 宿泊データ分析システムの活用目的

- ア 現状把握
 - 現状把握のため、地域に関する情報を集める。
 - ・宿泊データ分析システムのデータ収集
- イ 戦略・施策の検討
 - 顧客層や予約状況の分析、施策の検討する。
 - ・訪問客の属性や予約状況を把握
 - ・プロモーションのターゲット候補・時期の検討
- ウ 効果測定
 - 施策実行後、データを確認して効果測定する。
 - ・経済波及効果などの効果測定



3 宿泊データ分析システムの機能

- ア 表とグラフで表示・クロス集計分析
 - ・一般的な旅行統計では捉えられなかったスピード感でデータ収集が可能。
 - ・収集したデータは、さまざまな形で表現



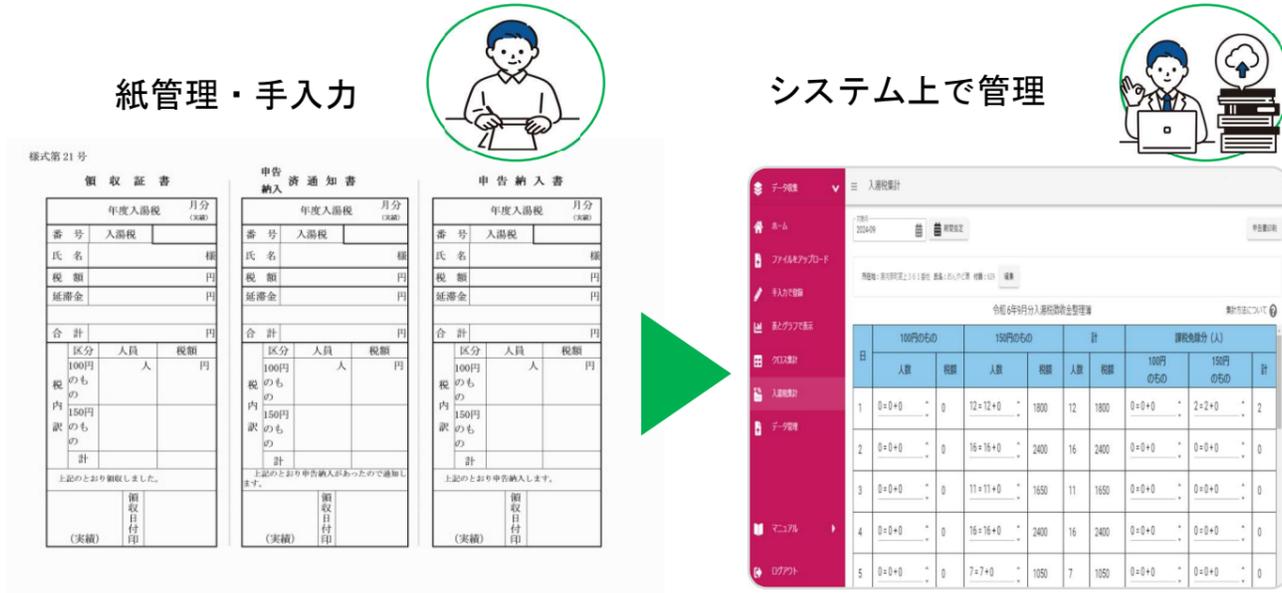
イ セグメント分析

- ・立地別、規模別、価格別の施設セグメントごとに宿泊データを集計し比較・分析が可能。



ウ デジタル入湯税機能

- 紙で管理していた入湯税の書類を宿泊データ分析システム上で計算・出力できる機能。



PDFで出力することが可能



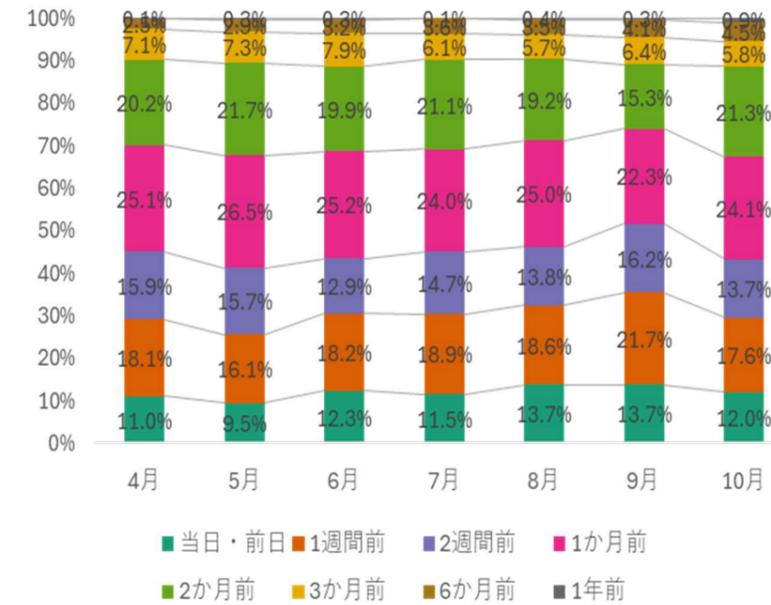
▲入湯税集計画面（データ収集）



▲納入申請書（PDFデータ）

4 宿泊データアウトプット例

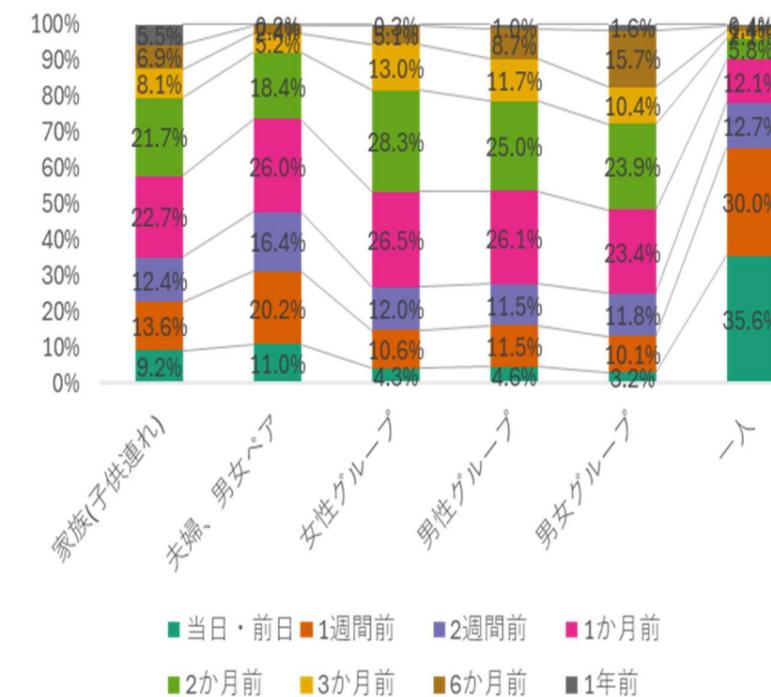
ア 2024年4月～10月 宿泊予約タイミング別推移



データでの現状把握

- 1か月前予約が最も多い
すべての月においてこの傾向がみられる。
- 直前予約の傾向
当日・前日予約～1週間前予約を合わせると、全体の約3～4割を占める。
- 長期計画予約の少なさ
6か月前、1年前の予約は比較的少数。

イ 2024年4月～10月 旅行形態別×宿泊予約タイミング



データでの現状把握

- 一人旅行者の直前予約傾向
他の旅行形態と比較して、当日・前日や1週間前などの直前予約が非常に多い。
- グループ旅行の長期計画傾向
男女グループ、女性グループ、男性グループのグループ旅行は、1か月前～2か月前の予約が多い。

データを根拠に現状把握⇒仮説検証⇒次の打ち手の検討

PDCAサイクルを回すことが可能に。